

6) 美ら島自然学校の利活用

仲松由美子¹・国広潮里¹

キーワード：美ら島自然学校 地域連携 廃校跡地利用 地域活性化 ウミガメ

1. はじめに

当財団では、平成 21 年に閉校した旧名護市立嘉陽小学校の跡地利用事業者として、平成 26 年に名護市と賃貸借契約を締結し「美ら島自然学校」として、平成 27 年に運用を開始した。正面に太平洋、後方を山々に囲まれ、古くからの地域文化が継承された集落、またグスク時代の遺跡が位置する、豊かな自然や文化遺産に恵まれた立地条件を活かし、普及啓発を目的とした各種催事の開催場所、および東海岸の動植物・歴史文化の調査拠点としての活用を図るとともに、地域住民と連携した事業展開を行った（写真-1）。



写真-1 美ら島自然学校（旧嘉陽小学校）全景

2. 実施結果

「太平洋を望む豊かな環境で 誰もが学べる自然学校」として、幅広い年齢・知識層の方を対象とした事業展開を図った。主な事業は 1) 一般向け事業、2) 調査研究利用、3) 学校向け事業の 3 つに分かれている。令和 6 年度の施設利用者の総計は 9,273 名（前年度比 86.3%）であった。

1) 一般向け事業

ゴールデンウィークと春休みの特別企画として、ウミガメ飼育施設を活用した有料体験プログラム（飼育体験）を実施し、それぞれ 146 名と 122 名の参加があった（写真-2）。プログラムへのリピーターが増えてきていることから、プログラムの質の高さが伺える。今後は新規参加者を増やすため、SNS 等を用いた広報を強化する。

施設見学者からの聞き取りを 379 件行ったところ、県内からの来校者は約 66%と半数以上を占めていた。

来校者が美ら島自然学校を知ったきっかけは、「地域の関係者から（約 35%）」が最も多く、「たまたま通りかかった（約 13%）」が次点であった。2 回以上来校しているリピーターは約 36%で、そのうちの約 34%が友人や家族を連れて再来校したと答えた。このことから、地域に信頼され、周囲に勧められるような施設になっていると考えられる。また、6 月から美ら島自然学校独自の SNS アカウントの運用を開始した。3 月末日時点でのフォロワー数は 335 名であり、SNS を見て来校した人数も徐々に増えている。今後は SNS を使って情報を積極的に発信するとともに、講師派遣や出前授業などの外部団体からの依頼対応時に美ら島自然学校への誘客を強化する。



写真-2 ゴールデンウィークイベントの様子

2) 調査研究利用

構内に設置したウミガメ飼育施設では、海洋博公園ウミガメ館生まれの幼体の飼育調査を継続した。また、7 月から 8 月にかけて前年度生まれの幼体を標識放流し、回遊調査に供した。総合研究所各課室と連携し、ウミガメ類の産卵痕跡調査、ストランディング調査を行った。それぞれの調査結果は、一般向け催事などの資料として随時活用したほか、校内へ展示することにより、近隣の自然環境の現状を来校者へ周知した。

また、外部研究者による施設利用として、高校の生物部による周辺地域での調査を目的とした施設利用が 2 件あったほか、調査会社等の研究機関による調査拠点としての利用を受け入れ、総合研究所職員による調査利用も継続した。

地域の文化調査として、伝統行事やその他地域の

¹ 普及開発課

活動に積極的に参加し、地域住民との交流から情報収集を行った。

また、地域連携事業の一環として名護東海岸フラワーフェスティバルへ参加し、植物研究室との連携により、苗木の無料配布および校内花壇にキク科ベニバナの栽培展示を行った（写真-3）。ベニバナ栽培展示では、花色の違う系統（橙色、黄色、白色）を播種し、ベニバナの特徴や利用について、また色素（化学物質）の違いについて解説したパネルも併設した。さらに、関連した学習プログラム「ベニバナを使ったハンカチ染め体験」を実施した（写真-4）。



写真-3 校内花壇ベニバナ



写真-4 ベニバナを使ったハンカチ染め体験

3) 学校連携事業

県内北部地域の小学校や教育委員会等と連携し、年に3回以上の学習を継続する「通年学習プログラム」および1～2回完結型の「短期学習プログラム（出前授業）」を展開した（詳細は「やんばる環境学習」参照）。また、県内修学旅行等の利用が7校457名（前年度比121%）（写真-5）を記録、当該学校へは学習の振り返りができるワークシートを作成し配布した。



写真-5 県内小学校による修学旅行利用

3. その他

1) 地域連携

(1) 民泊の受け入れ

地域の民泊事業者と連携し、県外中高生および一般の方への施設案内267名を対応した。地域の海岸に野生のウミガメが産卵にくること、旧嘉陽小学校でのウミガメ学習の取り組みが現在の美ら島自然学校へ継承されていることなどを説明し、ウミガメの生態や地域環境について周知することができた。

(2) 地域の施設利用

久志駅伝大会では1,472名の利用があった。また、グラウンドを利用して、地元区民による嘉陽区安部区の合同区民運動会が開催された（写真-6）。さらに、元日の初日の出見学者の駐車スペースとしてグラウンドを開放、車輛の誘導を行った。地域からの要望もあり、敷地内の一角で地域主体の飲食ブースを設置し、地域住民との連携を図った。



写真-6 嘉陽区安部区合同区民運動会

(3) 地域連携型催事

「第4回ウミガメまつり」を12月に開催した。久志地域の魅力を発信することを目的に開催しており、美ら島自然学校からはウミガメの観察会

や動物研究室と連携したサメの解剖教室などを実施した。地域からはフクギ染体験やポタポタアートなどの体験ブースや飲食ブースなどが出店し、延べ455名の来校があった（写真-7）。



写真-7 第4回ウミガメまつり（サメの解剖教室）

2) 施設管理

施設の劣化・不具合箇所の点検を月1回、日中の施設内巡回点検の実施と夜間は防犯カメラとセキュリティシステムにより機械警備を行った。

また、消防訓練のほか不審者対応講習を行い、緊急時における対応にいて確認し、追加の鍵取り付けについて調整を行った（写真-8）。



写真-8 消防訓練（初期消火）

4. 外部評価委員会コメント

目的達成のための知識の普及と地域振興を近隣4団体共同で実施し、施設利用の推進を図っているのは良い傾向である。建物の定期点検や飼育施設のメンテナンス、違法駐車等必要事項の業務を行って成果を挙げ、さまざまな催事や地域及び近隣学校との連携なども行って集客に努めているのはよい取り組みである。備品などの未使用予算はもっと早く実施するようにした方がよいのではないか。

（西平顧問：琉球大学名誉教授）